

システム構築に係る主な論点

システム構築に係る主な論点

1. システムを利用する目的の明確化・具体化

<全般>

- 海運モーダルシフトの推進に向けて、システムの構築が必要な理由は何か。①荷主企業、運送業者等利用者に対する海運の認知度アップ、②様々な交通モードの中で比較検討する際に必要な情報を提供し、利用者の利便性を向上、の2点以外にないか。
- なぜ上記の目的に照らしたシステムがこれまで存在しなかったのか(既に民間企業において同様のシステム提供は始めているが、普及に当たっての課題は何か)。

<荷主企業>

- 荷主企業がシステムを利用する目的は何か。海運の利用を決定する際に、具体的な航路等の情報を得ることが目的でよいか(具体的な航路等の情報が得やすくなると海運の利用は増えるのか)。
- 具体的にどのような場面で誰がシステムを利用することが想定されるのか。

<運送事業者>

- 運送事業者がシステムを利用する目的は何か。既存の取引事業者や系列海運事業者以外について、運賃、空きスペース情報等を比較検討することが目的でよいか(具体的な情報が得やすくなることで海運の利用先は変わるのか)。
- 具体的にどのような場面で誰がシステムを利用することが想定されるのか。

システム構築に係る主な論点

<海運事業者>

- 海運事業者がシステムを利用する目的は何か。既存の取引事業者以外に顧客を拡大することが目的でよいか。その他、システムに期待することはないか。逆に、システムが構築されることで懸念する事項等はないか(取引先とのみ共有している個別の営業情報等が広く開示されること等)。
- 具体的にどのような場面で誰がシステムを利用することが想定されるのか。

2. システムを構築・利用するにあたっての課題

<荷主企業>

- より幅広い荷主企業がシステムの存在を知り利用するためには、どのような方策が必要か。
- 荷主企業としてシステムを利用する際に必要な情報は何か。航路、運航ダイヤ、遅延等情報、空きスペース、運賃といった情報で不足はないか。逆に必要ない情報はるか。

<運送事業者>

- より幅広い運送事業者がシステムの存在を知り利用するためには、どのような方策が必要か。
- 運送事業者がシステムを利用する際に必要な情報は何か。航路、運航ダイヤ、遅延等情報、空きスペース、運賃といった情報で不足はないか。逆に必要ない情報はるか。

システム構築に係る主な論点

＜海運事業者＞

- より幅広い海運事業者がシステムの存在を知り利用するためには、どのような方策が必要か。
- 前頁の情報項目とは別に、海運事業者として提供したいと考える情報項目はあるか。逆に、提供する必要はない(あるいは提供が困難)と考える項目はあるか。空きスペース、運賃等の情報を項目として加えるべきか。
- 情報を提供する際、各海運事業者においてシステムへの登録・更新を行うとした場合に、社内の体制(人員、スキル)等の課題はあるか。
- その他、何か情報提供に当たって課題はないか。

＜全般＞

- 情報の登録・更新頻度はどの程度とするか。各海運事業者において登録・更新を行うこととし、頻度も各事業者に委ねるということでよいか。
- システムの運用に当たって留意すべき事項はなにか。システムの運用形態、セキュリティ等で特別に考慮すべき事由はあるか。
- システムの運用主体として望ましいのはどのような者か(具体的には次年度以降の検討課題となるが、システムの構築段階で検討しておくべき内容はあるか)。